

思いやりは「推測」

浦安市立明海中学校3年 橋本 航輔

私はソフトテニス部に所属しており、試合があるときは、バスや電車を乗り継いで試合会場に行きます。気温が上がり始めた今年の七月、市川のスポーツセンターでソフトテニスの試合がありました。その帰り道のことです。私は一日中、多くの試合とチームの応援をしていたため、その日はとても疲れていました。帰りのバス停で私は、

「バスの席が空いていたら、なんとしても座ろう。」

と心に決めていました。

まもなくやってきたバスは少し混雑しており、私は急いでバスに乗り込むと、空いていた席に飛び付きました。

「これで家まで少し休めるな。」

と早速ウトウトしていると、次のバス停でおばあさんが乗ってきました。私の前に立っていたおばあさんを見て私は、

「ああ、席を譲らないといけないなあ。」

と思ったものの、

「今、自分は疲れているし、このおばあさんも次のバス停ですぐに降りるかもしれない。自分は今座ったばかり。他の人が席を譲ればいいのに。それにもし席を譲って断られたら恥ずかしい。」

と思い、少しの間、寝たふりをしてしまいました。しかし、おばあさんは荷物も持っており、しばらく降りる様子もなかったことから私はようやく気持ちを切り替え、席を立つことにしました。ずっと席を立った後、おばあさんはしばらく立ったままでした。私が

「おばあさん、席をどうぞ。」

と声をかけたところ

「いいんですか。ありがとうございます。」

と言って、私が先ほどまで座っていた席に腰掛けました。私は動く

必要はなかったのですが、何か気恥ずかしい気持ちになり、ドアのわきに移動しました。

おばあさんは、そこから2つ先のバス停で下車しました。バスを降りる際、立っていた私を見つけると

「本当にどうもありがとう。」

と声をかけてバスをゆっくり降りていきました。私は満ち足りた気持ちになる一方、少し心苦しい気持ちに襲われました。

相手の気持ちを推理して、人のために何かをする、という思いやりの気持ちは、誰でも普通に持っている感情だと思います。私もテニスの試合の帰りでなければ、すっとおばあさんに席を譲ったと思います。ではなぜ、私はすぐに譲れなかったのか。それは、私がおばあさんに対して、自分自身にとって都合の良い、自分勝手な推測をしたからだと思います。

「自分は疲れているからこのまま座っていいはずだ」とか「おばあさんはすぐに降りるかもしれない」あるいは「席を譲って断られたら恥ずかしい」といった私の推測は、自分を守るための推測であって、おばあさんの気持ちを推測したものではありません。相手の気持ちを自分に都合の良いように推測し、おばあさんの気持ちを自分が行動しない理由付けに使っていたということです。

では、思いやりの気持ちを行動に移すにはどうしたらよいか。いろいろ考えてみた結論は、自分ではなく、相手の状況をもっともっと深く推測することだと考えました。

先ほどのおばあさんの例で考えて

「おばあさんの帰りを待っているおじいさんが家で待っているかもしれない。」

「おばあさんの持っているに持ちは見た目よりもっと重く、立っているのが辛いのもかもしれない。」

「おばあさんが、本当は私に席を譲って欲しいと思っているが、疲れた表情をしている私を見て、席を譲って欲しい、ということを通

めてしまっているのかもしれない。」

このような自分自身ではなく、相手の状態や感情をもっと深く推測することで、もっと早く、後で心苦しい気持ちをもつこともなく、すっとおばあさんに席を譲ることができたかもしれません。

人々が相手のことを考え、思いやりの行動をし合う社会はとても素晴らしい社会だと思います。もちろん、急に社会を変えることは難しいことだと思います。しかし、自分の考えを見直し、少しずつ思いやりを行動に移していけば、自分の周りに小さな変化をおこし、それが波紋のように社会全体に広がっていくのではないのでしょうか。